

常盤新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元

印刷所 福島縣石城郡平町田町廿六番地

電話 二四一

発行所 川崎文治

刊夕日一十二月七

宏量海の如し

中山雅司

人共にかゝりたういふ
今日社會に立つて、名勢地位財産等を有する者、夫れ等の光に眩惑されて他から偉く見ゆる物である、巍々たる邸宅の奥深く、肥大の體を長椅子に反らせ、葉巻の紫パツと吹いて『そんな事はどうでも良いでは無いかハハハ』と悠揚迫らぬ得意満面の態度に接すると、多くは其煙りに巻かれ『偉いものだ、如何にも宏量海の如しだ』などと直ぐ買ひ被つて了ふ

そこで最初から狭量な人と承知して居れば、用心堅固に言行をさるから過ちは少ない、處が買ひ被つてかかると應々の外れる、寛大だと思つて居た人の口から意外の毒評が飛び出し、廣量だと思つて居た人の心に案外の悪感の舞い込んで自分の位置を傷けるやうな事例はいくらもある

要するに度量の廣い人が少なく、狭いけち臭い奴が多い世の中である、試みに自分より上位置にある人に對し、朝夕の挨拶を簡略に遣つて見る、假令裏心はさうあらうと、形式が調つて居らねど『彼奴怪しからん』

ロク／＼禮もしない』と來る、そして其言ひ草が可笑しい『人は感情の動物であるから』とは臍茶の至りだ、筆者は想ふ其劣等な思ひも付かぬ感情を、態度に抑へてこそ、始めて彼等の大面や、天狗鼻とつり合が取れるのである、併し此論は下から通らない

遠く望みて美しく、近く寄つて猶且壯麗雄大な感を感じゆる傑士、宏量海の如し』と言ふ人格者は富者權者學者の内に、求め得ずして却て赤手空拳、奮勵努力以て自己の地盤を築き上たる、所謂成り上りの苦勞人に多いものである

急告!!!

▼賣家

一和洋(二階建)六三坪六合
一折裏(六三坪六合)
一一下屋(二十四坪五合)
一場所(平町田町平陽、實科女學校々々含)
右建物買却す希望の方は申込まれたし

委細面談……酒井

平町字長橋町
柏木支店

銘酒 大柏
氷の果實蜜は
東京製品特に
勉強仕候

電話 二四三番
新設

大村

料理師
開設

那役所横通
大村屋

平町二丁目
(電話一七五〇)

錦水 流
教授
平手錦鞭

常磐文藝

夏の夜

飯村閑舟

碧青に横けられた無限の星
キラビヤかな銀色の光を
放つ不揃の連り。

心に秘めた悶々
星輝の輝に明るく晴れ明す
若い羞恥の暗の襲ひ。

夏の夜は眠る氣が失せ
愛空の扇風に揺られ
川の水に木葉が浮び沈みつ
流れ行く象徴の現れ。

ジツト眺めた川面に映える
銀星は皺苦茶の波紋に
もみ萎縮の醜弄の浮目
人生路もかくあるべきー
(完)

美味と西洋料理
經濟の御料理

丸昇軒食堂

電話二四三番
(丸昇軒本店隣)
御入浴も御隨意ですから
御散歩の折には是非お立ち寄
願ひます
……女給募集……

大勉強販賣
石城郡平窪村
石材商會

店主 鈴木 彌米
南町火見下
中山岩其他各種
石造土木請負業

寄附者芳名廣告

合計壹千五百八拾五圓

- 一金五拾圓
- 一金貳拾圓
- 一金貳拾圓

武田精一殿
小野圓次郎殿
關内半平殿

累計壹千六百七拾五圓也

本廣告ヲ以テ領收書ニ代フ
大正十三年七月廿一日
大瀧發電所 同盟會
許可反對

石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四一番

清酒 鶴仙
元造 松吉屋本店

時候適品!!!

友仙モス (二尺)	十二錢
白綿格子 (二反)	八十九錢
手拭地 (二反)	八十五錢
白染緋 (二反)	一圓卅五錢
紺染緋 (二反)	一圓卅五錢
紺モス着尺 (二反)	五圓三十錢
紺羽織地 (二反)	五圓五十錢

其の外銘仙、洋傘、小紋錦紗上布、帶地類、紋付類、綿絹布類一切

橋土町平城幣
店服吳屋鹽
番一十二話電

劇代時
嵐瑠璃。湖みどり。松枝鶴子 共演
坂東豊昇。嵐笑三。常盤松代

時々の紅葉
卷五全

劇畫映
弱き者よ!!! 汝の名は女なり
戀に生戀に死する戀愛の三角形?
女ごころ
卷七全

歐洲映畫!!! 佛國パター會社作
ルネローランド嬢主演

呪の覆面 全十五篇 第三篇
帝國館
電話五五五番

株式賣買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

錦格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三五
平銀行	五〇〇	七一〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	五〇〇	四三〇
磐城銀行	三〇〇	二九〇
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四五
同新	一一五	一八八
同新	五〇〇	五五〇
同新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
同新	五〇〇	三六五
同新	二二五	一六〇
只見川電	二二五	六五
植田水電	二二五	一三五
好問水電	二二五	一三〇
磐城建物	一一五	五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二三〇
好問軌道	五〇〇	三三〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	六〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同新	二二五	一八〇
磐城セメント	五〇〇	六四五
同新	二二五	三四五
平運送	一一五	八〇

平町田町 電話三三二番
丸登株式店
川添房二郎

調停者の勞を多しし 解決案の覺書に調印

關係者一同は本日出縣
手續きを急ぐ爲め

既報青沼、漆畑兩調停者の再起に依つて大瀧發電所問題は急轉直下の形勢を示し激昂の極にあつた人心も幾分緩和されたるが如き觀を呈するに至り一昨日平町にては水道部樓上に於て水道委員會を開會同盟會から一任された解決案を附議し其間種々錯綜した議論も沸騰したが調停者は五名の入監人が一刻も速やかに出獄し得べく告訴人たる石井東日記者に告訴狀取下げを爲さしむる爲め極力盡力すべき附帶條件を以つて左記覺書を承認し

覺書

一、小田炭礦株式會社及平電氣株式會社は其代表者連署を以て大正十三年四月廿六日福島縣知事の許可を受けたる福島縣指定土第三八〇一號好間川筋水利使用に關する計劃變更並工事施行の件を大正十一年七月十八日福島縣指定土第一八〇三號を以て福島縣知事より許可ありたる場所に變更願を提出する事

二、平町は前項大正十三年四月廿六日附許可に依る平水道取入口下流に放水する發電計畫は平町水道に對し有害なるや否やを再調する事
三、前項調査の結果平町に於て無害有利なりと認めたるときは同意することあるべし
右覺書を作製し各一通を處持す
大正十三年七月十九日

小田炭礦株式會社 取締役社長 小田吉次
平電氣株式會社 專務取締役 野崎滿藏
平町長 伊坂元正
立會人 漆畑元吉
立會人 青沼録太郎
伊坂町長は同日午後四時頃郡役所に至り青沼漆畑兩調停者立會の上小田野崎兩氏に會見更らに協調を遂げた結果右覺書に附記するに平電氣株式會社が他日大瀧江筋取入口上流に發電

御挨拶

一昨日私が石井東日記者証文の事件に關連し收監された被告側五名の證人として豫審廷に喚問された際は盛んに流言蜚語の放たれて居た場合であつた爲め各方面の御慰問を辱ふし殊に暑熱中に拘らる計數名の同志諸君が裁判所控室迄御送迎下さいました事は感謝に耐えぬ次第であります略儀ながら取敢はず紙上を以つて厚く御禮申上ます
常警毎日新聞社
社長 川崎文治

計畫變更を出願したる場合には立會人は之に盡力する事
の一條項を加へ互に調印を了した爲め縣廳に出頭直ちに其手續きに及ぶべく本日前六時平驛發平郡線に據り伊坂町長、井上縣議、青

沼鋒太郎、野崎滿藏、栗原欣次郎、小田吉次、中野甲藏の諸氏出發し茲に町民多數の宿望は達せられて第二次計畫の發電所は遂に放棄するに至つた

傳書鳩を漁業に使ふ

八羽購入飼育中
小名濱の野崎氏が試む
石城郡小名濱町漁業家野崎才助氏は此の程傳書鳩八羽を購入し目下飼育中であつて成長次第漁業に使用する筈である云ふが之に就て同氏は「今年になつて俄に漁區が遠くなり百哩乃至二百哩の遠距離を航海せねばならなくなつたので無線電帳簿を

ゴマ化して

遊廓に流連
石城郡泉村瀧尻當時神奈川縣鎌倉町居住沼田佐善(三)は去る大正七年十月より石城郡川部村東海炭礦分配所主任として勤務中昨年一月廿日社用を帯び金三百圓を携へ平瀨町に赴き同町貨座敷ト上樓に登樓遊興し二百

カテイラン

ふのりのごき方
張り物に用ふ糊はふのりが一番よいのですが、これもとき方によつて、非常に光澤に影響するものでございませう。ましてや綿物なごきうでございます普通はお鍋でぐすぐすと煮ごかして、それを布袋でこし出して用

借金王阿部が

略式百圓罰金

石城郡泉村大字本谷の大地主阿部忠安(三)は縣稅戶數割千五百圓を意納した爲め去る六月中旬平信託會社の假處分公示札をその所有地に立てられたが亂暴にもその札をぬき取つて放棄した爲め會社より平區裁判所に訴へられ十七日略式罰金百圓を言ひ渡された

自轉車を盗み

平署に捉る
双葉郡富岡町生れ住所不定前科六犯中原鶴美(三)は十八日午後三時半頃平町五丁目片寄要太郎方から自轉車一臺代八十圓を竊取逃走し當日夕刻平署の安田刑事の爲め平機關庫裏で捕はれたが同人は大宮町を根據とする自轉車専門の賊で昨年十一月から群馬、栃木、宮城、福島、茨城の六縣下から百臺近くの自轉車を盗み古物商に賣却したり又は入質した事を自白したが餘罪もある見込みの由



海水浴場の貸間料金

不正料金取締
焼ける様な酷暑を避て何れも温泉海水浴場と涼を趁ふて出掛けるが今年の暑さは測候所建設以來の温度で僅の時間を利用して或は登山に温泉浴場に亦海水浴場にさ夫々の方面に行き涼を求めて居るので相双、石城地方の海岸は近年稀に見る程浴客が多數入込んで居るが縣保安課では海水浴場に於て貸間をなし不正な料金を請求する者が住々あるので其の料金を調査したが石城郡の窪田相馬郡の釣師濱が

Table with 2 columns: Location (e.g., 窪田村, 小名濱町, 四倉町) and Rental Fee (e.g., 八疊間, 四疊間).

水道延長

工費の大半寄附
平町水道委員會は此程舊城跡眞木區長外十數名連署で

石炭産出高

全國第三位
五月中の重要石炭礦の産出高二百三十七萬四千八百七十一噸で昨年同期に比して一萬九千六百九十一噸の増加をなし一月以降の累計一千五百七十七萬五千八百二十三噸に達してゐる内本縣は本年の五月に十八萬四千八

悪番頭一掃

平署の客引き
平町停車場前に毎夕出沒して客引きをなす旅館の番頭は旅客の迷惑甚だしいので平署では嚴重な取締りをやつて居るが依然として其の

平町人事

平町乳劑撒布
平町は例年の如く左記日割により前後三四に互りて全町の各海渠に石油乳劑を撒布蚊蠅等の發生を防ぐこと
第一回 七月十四日十五日(施行済)
第二回 同月廿八廿九日
第三回 舊盆前(日時未定)